



インクルーシブデザインの手法を活用した

フィールドワークを表現へ

The Way to [and From] the Museum

## 展覧会ドキュメント〔記録集〕 Exhibition report

アーティストや研究者が、聴覚障害者、小さなお子、視覚障害者＆盲導犬、車椅子ユーザーと一緒に美術館の周りの道を歩いた体験をもとに、視覚、聴覚、触覚、嗅覚から感じる作品を作り上げた展覧会の記録集です。会期中に配布したリーフレットも中に包んでいます。様々な立場からの小さな試みの1つ1つをご覧いただけましたら幸いです。

## 茅ヶ崎市美術館 CHIGASAKI CITY MUSEUM OF ART

主催 公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

協賛 ホルペイン画材株式会社

協力 公益財団法人かながわ国際交流財団

株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ

PHILEIDO 株式会社ボンド CHIGASAKI BASE

高砂香料工業株式会社 神戸芸術工科大学デジタルクリエイションラボ

MULPA Museum UnLearning Program for All

みんなで「まなびほぐす」美術館—社会を包む教育普及事業—

inu it furniture. コピトのくつ

助成 公益財団法人 花王芸術・科学財団

2019.7/14 SUN - 9/1 SUN

### フィールドワーク協力者

町田 健子

安原 理恵

香川 實志

金 明哲

〈映像〉

湘南工科大学

このリーフレットの

テキストデータ ↓

Text file of this leaflet

### 展示協力者

中村 開

平尾 葉美

市川 浩洋

金子 有希 & 菊花

矢野 賢太

大塚 浩太





世の中は物事や他者への理解を深めようとする力が弱まりつつあるのではないか。そのように感じる機会が多い昨今、ある弱視の方から「(美術館までの順路が)複雑で分からないから、その道のりを楽しんだ」という話を聞いた。分からずの状況に対し、楽しむ力で挑戦する姿勢に感化され、美術館を取り巻く地勢、町、障害のある方を含む異なる特性をもつ人々、多様な価値観などを絡めながら、物事を捉え直すという試みが始まった。表現者たちには「他者と美術館のまわりを歩く道のりから作品のテーマを見出で欲しい」という無茶なお願いに応えていただいた。フィールドワークを重ね見えてきたのは“誰かと歩くと一人一人感覚が異なるから面白く、同じ道でも違う世界に見える”ということ。障害の有無を超えたこの一見シンプルな結論に、参加した皆が辿り着くのはそう簡単ではなかったように思う。しかし、その分、作品には五感に訴えかける多くの要素が取り込まれ強度を増し、観覧者からは「様々な感覚が呼び覚ました」「閉じていた何かが少しづつ開かれていた」などの感想があった。自己の感覚を研ぎ澄まし、多様な物事や他者とどこまで向き合えるかを問うた展覧会が終わった。そして、今、この美術館からつづく道が、あなたのものとにもつづいていることを願っている。

2019年9月  
藤川 悠 (茅ヶ崎市美術館 学芸員)

The world seems to be moving in the direction of fewer and fewer people seeking to understand each other, or to engage with social issues. I was mulling these points when a person of impaired vision told me how greatly they had enjoyed coming to our museum, precisely because the way here was rather complicated and difficult to find. I was impressed by this attitude, of tackling unknown situations with enjoyment. I began to undertake experiments into redefining the meaning of environment, based on this museum's surroundings and streets, to see how people with different abilities or disabilities, and diverse value systems, negotiate this. I asked various creators to respond to a difficult challenge, namely, devising a work based on the topic of walking around the museum in the company of other people. Repeated fieldwork has revealed that walking with someone is interesting because we all have different sensitivities. The same path may look different depending on who you are with. This may sound a simple conclusion beyond the issue of whether one has disabilities, but it was not so easy for all of the participants to come to that realisation. So it was that the resulting art works shared a strong aspect of appeal to all five senses. As I listened to visitors' responses to the works, I heard comments like 'new sensations awakened within me,' or 'something that had been closed opened up.' The exhibition has now finished but it aimed to sharpen our own senses and question how, and to what extent, we could confront the notion of others in diverse environments. I hope the way to this museum now leads to you.

September, 2019  
Fujikawa Haruka, Curator, Chigasaki City Museum of Art

## 作品制作協力者によるコメントと作品紹介

### 普通の何気ない日常が愛おしくなった散歩記憶作品〈来館者80代〉

ちがさきさんぽきおく　きおかしいぼう  
茅ヶ崎散歩記憶と記憶細胞

Chigasaki Memory Walks and Cells

アーサー・ファン Arthur Huang

制作協力：和久井真糸 平尾菜美



《茅ヶ崎散歩記憶・記憶細胞・散歩記憶ドローイング》with 和久井真糸

インクルーシブという手法を芸術に取り入れる企画を初めて体験しました。多くの美術館は車椅子目線からでは鑑賞しにくい配置ですが、今回は車椅子でも障害に関わらず楽しめました。アーサーさんとの散歩では、視線の高さの違いが面白かったです。そもそも、大人と子どもでは視線の高さが違うので、見えている世界が違うといつても過言ではないと思います。世界の違いを共有しつつ素敵に表現してくれた作品に心から感謝したいです。

エーラスダンロス症候群患者会  
車椅子ユーザー

和久井 真糸 Wakui Maito

制作協力者のコメント

制作協力者のコメント

**作品紹介** 1971年、「場所細胞」という細胞が脳の記憶を司る海馬内に発見された。この画期的な報せは、脳の研究者でもあるアーサー・ファンが、日々歩いた道の記憶を線や記号で地図のように描く現在の作品制作のきっかけとなった。細胞を想起させる無数の円形状の作品は、今回ショーウィンドウ内の床面、壁面、さらには天井からと様々な高さに配置された。車椅子ユーザーと過ごして気づいた互いの視点の高さの違いがもとになり挑戦した展示方法である。日々の散歩リサーチからの作品は、目的地までの“あいだの道”を人々に意識させるものとなった。

### 指で触れて進むと、音や光や香りの変化で目を閉じていても景色が見えた。〈来館者50代〉

うつしおみ Utsushiom

MATHRAX〔久世祥三 + 坂本茉里子〕Kuze Shozo + Sakamoto Mariko

制作協力：小倉慶子、稻場香織（香料開発）



《うつしおみ》with 小倉慶子 & ブリス

あの日のリルハはシッポを振りながら雨と風の中を軽快に進み、一緒に歩いた誰もが思いがけないスピードと高揚感を共有。アトリエに戻るといつのまにか爆睡。自己主張したり挨拶に行ったり。これまでの盲導犬のイメージを拭去。それから八ヶ月後に急逝。それが作品に何ら影響したらと動搖する心。でも、その死さえも優しく表現されていて。その空間は変化する光と木の触感と流れる音と懐かしさがよぎる香りと、あの日のリルハ。

盲導犬ユーザー / 視覚障害者 小倉慶子 Ogura Keiko

**作品紹介** 口の字に組まれた木製のひとつづきの「道」。その上には異なる形の木片が133個も並び触覚・聴覚・視覚・嗅覚に訴えかける世界が作られた。オブジェに触ると1つ1つが共鳴し様々な音色を発し、室内は空の一日の変化を辿るかのように光の色合いを変える。そこに添えられた夏のむせかえるような草の香り。視覚障害者と盲導犬が共振し風を切って進む様子から発想されたこの作品は、人が前へと進む原初的な力を呼び起こそうとしている。そして、作品の完成前に急逝した盲導犬リルハへの鎮魂の意が込められると共に新たな生への輪廻のイメージも想起させた。

木漏れ日の中、歩いて入っていけそうな世界が拡がっていた。〈来館者20代〉

どて うえ みち かいだん  
**土手の上で・道 / 階段**

On the Bank road / steps

**原 良介 Hara Ryosuke**

制作協力: 原 美帆 原 そよ



《道/階段》with 原美帆 & そよ

初めて子どもと美術館まで歩く道は、安全に敏感になっていたと思います。道なき道をいく様子から「負荷が好き」というフィールドワークで得たキーワードは、確かに当時2歳の娘の日々の一部であったとも思います。そして、観察から導き出された作品は、駆け上がるような豊かな世界であり意外でした。展示、シンポジウムやアーティストトークにも参加し、2歳児の特性を当たり前に受け入れて頂いたこの展覧会の環境は、印象に残る体験となりました。

2才の子の母親 / ベビーカーユーザー **原 美帆 Hara Miho**

制作協力者のコメント

**作品紹介** 絵画作品《道/階段》は、画面上部の空色に向かって、中央に階段のベージュ色、左右には草木の緑色が、層となり積み重ねられている。この作品は、2歳の子が道を進むことより斜面や階段を楽しみ駆け登る様子から着想を得ており、見る者の視点を上へ導き、さらにその先に広がる世界へと誘う。日本画家・東山魁夷の名作《道》と同じ3色で描かれながら、画面下の陰影が単純な風景画とはせず、あたかも風景が物として置かれているような重層性を提示している。絵画における二次元からの脱却を図る原が、新たな境地を開いた作品といえる。

吹きかける息で音と光が螢のように舞い、幼い頃を思い出した。〈来館者30代〉

おんりん  
**音鈴 On Ring**

**金箱 淳一 + 原田 智弘 Kanebako Junichi + Harada Tomohiro**

制作協力: 西岡 克浩 和田 みさ 市川 節子 中村 開



《音鈴》with 西岡克浩

暑い夏の夕方、月島にて、金箱さん原田さんと鉄板を囲み、もんじゃ焼きを楽しみました。熱気ある店内でうちわをあおぎながら、うますぎない匂い、白い湯気、じゅわじゅわと焼ける音、冷えたビール、そしてみんなとの会話。あらゆるもののが「食欲」をそそることを感じました。そしてゲームセンターでも遊び、そうしてともに過ごす体験から生み出された作品は茅ヶ崎のあらゆる魅力がギュッと詰まり楽しみ方は人それぞれだよ~、と語りかけてくるようなものでした。

美術と手話プロジェクト代表  
丹青社 / 聴覚障害者

**西岡 克浩 Nishioka Katsuhiro**

制作協力者のコメント

**作品紹介** 天井から吊るされた36枚におよぶ短冊型の電子デバイスは、風に揺られるとそれぞれ異なる音を響かせ、先端につけられたLEDの小さな光は、風の変化とともに瞬く。聴覚と視覚による幻想的な空間をついた金箱と原田。意識したのは、聴覚障害者と歩いた道で皆が同時に感じた海からの風であった。作品に触れるのではなく、見ること、空気の動きを感じること、そして、誰かと一緒に過ごすこと。1つの失われた感覚はその他の多くの感覚により補われていることを、居心地の良い空間で緩やかに示した作品となった。

パレットを持っているだけで嗅覚に意識がいき、海が近づいているのが分かった。〈来館者40代〉

みち  
かお  
道の香りパレット Fragrances of the Path

稲場 香織 Inaba Kaori  
制作協力: 小倉 慶子



《道の香りパレット》with 稲場香織、小倉慶子 & ブリス

フィールドワークのあの日、雨模様の中で、犬も人もクンクンしながら道に漂うにおいを嗅ぎ集めました。そのにおいの中から稻場さんが身近なものを6種類選択。彼女の調香術により匂いや臭いも「香り」にグレードアップ。香り玉になってパレットに收まりました。そこにいながらにして、パレットの香りはそれぞれの場所に心を誘ってくれました。香りは単純で複雑で単純に。小さいけれど一筋縄ではつくれない作品です。

盲導犬ユーザー / 視覚障害者 小倉 慶子 Ogura Keiko

制作協力者のコメント

**作品紹介** 香りの研究者である稻場は、視覚障害者が香りを道しるべにしているのではないかという思いから、道で捉えた6つの香り（松林、クチナシ、ドブ、海、コーヒー、コンビニ）をケースに納め、携帯可能な嗅覚による探検用キットをつくった。人の何倍もの嗅覚をもつという犬と香りのプロである彼女の特性を活かした本作は、人によって香りの印象が大きく異なるため、誰もが同じ感覚を持っているわけではないことを改めて示し、それぞれの嗅覚世界を開くきっかけとなった。

インクルーシブデザイン・ファシリテーターより



インクルーシブデザイン思考を有形の成果物として様々な方に楽しみながら感じ取り、知って頂くことが出来た素晴らしい出会いでした。美術との関わりが感じにくかった世界でしっかりと発信できるものが完成したことをしても嬉しく思います。

視覚障害、呼吸不全、車椅子ユーザー 鎌倉 丘星 Kamakura Kyusei

美術館の取り組み

- 点字チラシの作成  
目の不自由な方もご来館くださいの気持ちを込めて
- QRコードの配置  
目の不自由な方に向け、スマートフォン等での読み上げ機能に対応するようにテキストデータ入りのQRコードを会場パネルに配置
- リーフレットの作成  
視野狭窄の方に向け、パネルのテキストが手元でも見られるように作成  
QRコードの位置を示す「切り欠き」が入ったものも用意
- コミュニケーションボードや筆談ボードの設置  
耳の不自由な方に向けて。緊急時のために非常灯も各所に設置
- 美術館を楽しむためのご案内を配布  
「サポートが必要な方はお知らせください」という一文とともに、照明が暗い展示室を事前にお知らせすることで安心して展示をみていただけるようご案内
- 低い高さで作品を展示  
子どもや車椅子の方も作品が見やすいように





## 映像紹介



## 展覧会紹介映像 2'34"

視覚、聴覚、触覚、嗅覚などを使う新感覚のアート作品を、作品協力者の皆さんのが体験している様子がご覧いただけます。

撮影・編集：市川 靖洋 音楽：原田 智弘



## 道の香りパレット紹介映像 2'05"

茅ヶ崎の道で捉えた6つのにおいをヒントに、嗅覚を使った散歩を楽しむ親子の様子が茅ヶ崎の町の風景とともにご覧いただけます。

撮影・編集：市川 靖洋 出演：金子 有希 & 萌花

